



留学経験が自分の力に



■ 商学部4年
武田 絵美里

留学先大学名

ナバラ大学

留学プログラムについて

私は2013年9月から12月までの4ヶ月間、スペインのパンプローナにあるナバラ大学で留学してきました。ヨーロッパ各地からの学生だけでなく、世界中から留学生が集まって共に学ぶ授業が特色ある大学です。私は語学力の向上の目的のほか、世界同時不況や3.11の震災後に国内で噴出してきた様々な問題や論争等について、様々な視点から考えるために欧米的なものの見方を知りたい、と考えスペインに留学することを決めました。

授業について

ナバラ大学ではバラエティに富んだ授業を、英語あるいはスペイン語で受講することができます。ほとんどの授業にはプレゼンテーションやケーススタディなどが組み込まれていて、講義で学んだ知識をアウトプットする場が与えられました。最も大変だったのは、グループでケーススタディに取り組むものでした。私のチームは私以外が現地の学生で、議論が過熱してくるとスペイン語での議論になることがしそうでした。なん

とか英語に戻したり、つたないスペイン語で意見を述べるなどして、なんとかケースを終了させたときには、なんともいえない達成感を感じました。

交流

留学生同士はもちろんのこと、現地学生との交流も大変活発で、学生同士のパーティーや旅行など様々な行事があり、たくさんの学生と仲良くなれました。また、軽い冗談から各国の政治の話や宗教・文化の違い等の話に発展し、そこで軽く議論になることが頻繁にあったことが印象に強く残っています。このような意見の交換が、生きた知識を得ることにつながったとともに、自分が日本から来た留学生ということを強く感じることになりました。留学生活を通して日本の文化や政治、歴史などについて調べ、今あるイデオロギーに疑問をもつたことや、自分の意見をもつ習慣ができたのは大きな変化だったと思います。

また、現地ではスペイン語の練習のためにホームステイをしていました。はじめのころはホストマザーの言っていることが全く理解できずに

大変悔しい思いをしていましたが、最後の頃には稚拙ながらも会話らしい会話ができ、来た当初の話を笑いながらしたのはい



い思い出です。最後に彼女に「ここもあなたの故郷になったね。あなたも私の娘の一人ですよ。」といつてもらえたことが大変心に残っています。

最後に

以前は、自分の意見を主張し、相手の意見を引き出すことが大変苦手だったのですが、留学生活が進むにつれてだんだんと自然にできるようになってきて、語学力のほか基本的なコミュニケーションの能力が高まつたと思います。しかし、最も大きな収穫だと感じたのは、自分の中で常識だと思っていたことが、裏切られる経験をしたことです。常に新しい発見をし、異なるバックグラウンドを持つ友達と意見交換する。単なる語学力の向上だけでなく、日本あるいは世界で起こっていることの事象を知って、さらに自分の頭で考えるという能力が身に付いたと思います。4ヶ月という短い間でしたが、スペインでの留学という貴重な経験をさせていただいたすべての方に感謝しています。ありがとうございました。

